

1. 保育一元化のあり方について

(1) 保育のあり方について

乳幼児期は脳が作られていく非常に大事な時期であり、人間は環境の影響を強く受けながらその人格が形成されるものである。子どもは成長期に与えられた環境の中で、見たり、聞いたり、触ったりしながら体験的に学んでいく存在である。また一方、この時期は、集団の中に適応していく社会性が育っていくときでもある。「心を育てる」という保育の大きな目標に向かい、家庭を支援し、望ましい育成環境を準備することが幼児教育行政に求められていることである。

しかし昨今、親の労働形態は多様化し、女性の労働人口も増加し、また長時間労働を余儀なくされる家庭も広がっている。このようなことから保育所で過ごす時間が長くなり、親との接触時間が短くなっている子どもも増加している。しかし、子どもの置かれた家庭環境に配慮しつつも、習志野市の一人の子どもとして見た時、就学前の子育ての理念そのものが異なって良いとは思われない。こうした背景もあり構想されたものが「こども園」である。

現在、習志野市のこども園、幼稚園、保育所はすべて共通した「習志野市就学前保育一元カリキュラム」に則して保育されている。よりよい環境と高い保育の質の確保のために、「一元カリキュラム」の理念の実現をめざす「こども園」が実現するならば「こども園」の整備は、その理念をより具現化するものとして推進して良いことがらと理解される。問題は質の高い第2、第3の「こども園」を地域住民、関係者とともに具体的にどのように整備するかがむしろ大きな市の課題である。委員会ではできるだけそうした理念を具現化するためには、こども園の数がむしろ増えることが望ましく、こども園の数は7つにこだわることはないという意見もあった。

しかし、一方で、「保育一元化の理念は素晴らしい、こども園がいけないということではないが、現実に長時間児、短時間児という親の就労形態により子どもの生活リズムは違うので、今、無理やりにこども園に移行するよりも従来の保育所・幼稚園それぞれの特色を生かした保育・教育を行うべきである」とする意見もあった。また、現在の「こども園」の課題には合同保育ゆえの職員の努力だけでは解決できないことがあり、第2、第3のこども園の整備にはそうした課題をどう克服していくかをさらに検討する必要があるという意見もあった。

このことに対して、「理想的な保育を追求する場としても、東習志野こども園の検証を

踏まえながら、こども園整備を進めていくべきである」、「理想は目標」として、現実にはやれることから出発し、理想をめざし、改善を重ねていくことがむしろ既成の概念の幼稚園や保育所ではなく、新しい概念の「こども園」にこそ望まれるという意見もあった。そうした観点から、現行の「こども園」で両者を区別している問題については、例えば降園時間についてはそれぞれ個々の家庭の事情で決定し、それに従って帰るなどの工夫により長時間児、短時間児などの呼称をはじめとした区別を無くすなど、現実の保護者の困惑や戸惑いをできるだけ減らすようにすべきだという意見もあった。

一方で、現実のこども園という一体化した施設での合同保育により、生活リズムの違いから子どもへの影響が出ていないのか検証する必要があるという意見のみならず、生活リズムの違いに配慮した保育時間や午睡時間の設定、合同保育後の4・5歳の保育時間のあり方、長期の休みのときの保育にも課題があるという意見もあった。

次に、在宅家庭の子育て支援についてである。こども園のひとつの特長は在宅支援にあり、利用者のアンケートではこどもセンターの満足度は、「スペースの広さ」や「気軽に使えるか」というところに課題が見えるものの、非常に高く、設置の意義が利用者十分に伝わり、それが評価されていることがわかる。こどもセンター機能は必要性の高いサービスと評価でき、この機能は今後とも整備される「こども園」には付けていくべきであろう。また、「一時保育」サービスはニーズが高い割には実施数が少ない。緊急的なものについては、全所で行なうのが当然であると思う。今後は拡充が必要である。

(2) こども園における保育内容について

こども園の特徴の一つとして、子どもの生活リズムや降園時間が集団単位として違うことがある。職員には園児、特に長時間児の気持ちに配慮しながら対応することが求められる。現在もそのことへの努力は行われているが、今後もさらに子どもたちの立場（心を大切にしたい）にたった改善を重ねていくことが必要である。

職員の保育に向かう姿勢、その方法、内容などについては、アンケートからは、保護者、職員共に高い評価がなされている。職員は自信を持って保育に当たり、またそのことが保護者に伝わっていると理解できる。総じて職員の資質は高く、良い保育が行なわれていると推察された。

しかし一方で、幼稚園と保育所で従来それぞれ行なわれてきた「行事のあり方」や「保護者間の関わり方あるいは保護者と園との関わり方」の違いは、現在でも大きな課題の一つと言える。就労等により時間的な制約のある長時間児の保護者と比較的制約の少ない短時間児の保護者の求めているものに違いがあり、アンケートではそれが「行事のあり方」や「保護者間等の関わり方」に不満に見て取れた。しかし、保護者からは「不満

は残るものの改善はされている」との評価が見て取れることや、園においても平成20年度に共通のPTAを立ち上げたことから、これについては改善途中ととらえ今後の推移を見たい。

そのような中で、本委員会としては、こども園の保育内容や職員の資質向上のためには、職員の日常的な不満、不安等を相談することができ、意見交換、情報交換などができる仕組みや場を設け、研修の機会をさらに充実することができるような体制が必要であると考えている。苦情への処理体制を含め、より風通しの良い職場環境の形成がその基礎にあると考えられる。

いずれにしても、新しい保育形態である「こども園」は、そこで行なわれる保育・教育の質が既存の保育所・幼稚園のそれよりも高いものであるということが地域住民や利用者に認められる前提条件となる。職員や行政の一致した「こども園」の理念の実現に向けた努力と想いが必要であり、行政にはそうしたことが実現できるような可能な限りの支援が求められている。

(3) 今後の「こども園」の整備の進め方、あり方について

(仮称) 杉の子こども園についての進め方

杉の子幼稚園の老朽化は著しく、保育機能を充実するという観点だけでなく、子どもの安全確保などの面からも建て替が早急にのぞまれる。現行の杉の子幼稚園敷地を活用した計画は、従来の幼稚園機能に加え、新たに保育所機能、こどもセンター機能を併せ持つものとして構想されており、その機能間の定員の割り振りについては地域のニーズに応えることを前提に、下記の「留意すべき事項」や「東習志野こども園」の検証結果などを十分ふまえ推進していくことは重要なものと思料する。

建築計画の実施にあたっては、現施設の良好な自然環境を出来るだけ維持することと並行しながら、周囲の道路環境、利用者の安全確保、通園の利便性を図るための関係部署への働きかけや、さらには周辺の住民に対する工事等にかかる十分な説明、現在実施している市の公共サービスを色々な視点から拡大、利用しやすくできるよう要望する意見があった。

このようなことから計画の推進にあたっては、現在の保護者、市担当課、地域住民などによる、検討する場を設けることにより、移行が適切に行われるような仕組みづくりを考慮されたい。

(4) 留意すべき事項

(当面のこども園整備の基本的あり方について)

こども園の整備計画には、地方自治体のおかれた今日的な財政状態を考慮することは必要であるが、最初から「教育に関する予算の削減ありき」というのは、「文教都市 習志野」の理念からも問題として考慮される。こども園整備を進めていく際には、将来の乳幼児人口などの推移を見すえ、子育て支援の公的責任を十分踏まえ、公立の幼稚園・保育所を減らして行くことの是非議論と並行しながらの作業が必要となる。また、削減によって生み出された財源は、広く子どもたちの環境整備に使われることが必要である。

こども園の整備にあたっては、「保護者や地域住民」などの当事者の理解・参加や、それらの人々の意見も参考にすすめることが、開設後のより良い運営体制の保障の観点からも重要である。しかし一方では、整備計画は長期にわたるものであることから、当事者には、在宅家庭支援の視点や幼稚園、保育所など様々な立場の人々の今後の保育ニーズへの配慮など、将来の当事者になり得る人々の意見もできるだけ取り入れることも必要となる。また、実施にあたってはなにより、「こども園」の内容や理念について、就学前の保護者へのていねいな、わかりやすい説明が求められる。

「こども園」は「こどもセンター」や「一時保育」機能を併せ持っている。そのため不特定多数の人々が園に出入りすることとなり、不審者の侵入など安全管理上の課題となることがある。一方、「こども園」には地域の子育て支援の拠点という位置づけがあることから閉鎖的にならないような工夫も同時に必要である。安全管理と地域開放という両面への配慮・工夫が求められる。

当面の杉の子、袖ヶ浦の「こども園」の整備問題はいわゆる民営化問題と切り離して考えるべきである。民営化問題は今後の本委員会の検討課題であるが、「こども園」は従来の監督省庁の枠を超えた新しい保育形態であり、それを公立直営として、今後も市が責任をもって推進しようとする今回の案の実現のためには、皆で知恵を出し合いより「望ましい」ものをつくる方向で進めるべきである。

以上